加賀市医療センター 地域連携センターだより

TSUMUGI つむぎ

vol.06
2021.09

加賀市医療センターが一次脳卒中センター(PSC)に指定されました

脳神経外科 診療部長
北井 隆平
(きたい りゅうへい)

脳神経外科専門医・指導医、
脳卒中専門医、
神経内視鏡技術認定医

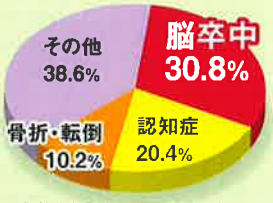
1964年 石川県生まれ
1990年 福井医科大学 脳神経外科
1993年 福井医科大学救急部 助教
1997年(~2000年) 米国ニューヨーク州 モンテフィオーレメディカルセンター
2013年 福井大学 脳神経外科 准教授
2019年 加賀市医療センター 脳神経外科

脳卒中は介護が必要になる疾患の筆頭です。

新型コロナが連日新聞紙上をにぎわせています。日本人では癌(がん)で死亡する方が1番で、かつて国民病と呼ばれた脳卒中は肺炎などの感染症に抜かれて、いまや4番目になっています。しかしながら、介護を要する原因疾患の第1位は脳卒中なのです。簡単に解釈すると、「脳卒中にかかると死ぬことはないが、介護が必要になります」ということなのです。

寝たきり原因の第1位

寝たきり(要介護5)となった主な原因の割合



厚生労働省 平成28年国民生活基礎調査
要介護の状況
日本脳卒中協会ホームページより引用

脳卒中の種類は?

急に脳の血管が詰まる脳梗塞、脳の血管が破れる脳内出血、脳動脈瘤が破裂するクモ膜下出血が主なものです。脳卒中は脳(脳に)・卒(突然)・中(当たる)という漢字が当てられています。脳を原因として突然におかしくなる病気ということです。

私の父母はよく「ちゅうぶう」と言っていました。北陸地方では多く使われているようですが、ちゅうは(当たる)、ぶう(風)のようで、医学が発達していない昔は、まさに悪い風(邪鬼)が人を選んで風のごとく通り過ぎ、急に人々を倒しているようにみえたのでしょう。

脳内出血

かつては50代、60代の患者さんが多く救急車で運ばれてきたものですが、高血圧の管理が良くなり激減しました。血管は水道管と同じですから、壊れる時は破れるか、詰まるかしかありません。降圧剤(圧力を下げる)で予防できる脳卒中です。血圧が高いと言われたら家庭内での血圧測定を是非お勧めします。

誰しも生活でストレスはつきもの、夫婦喧嘩をしたり、気温の上下で血圧は上がります。上がったときでも脳出血をおこさないように日々の血圧をコントロールしています。降圧剤は十数種類あり、強弱もさまざまです。医師は微妙な匙加減をしています。毎日の家庭血圧表は医師とのコミュニケーションの道具です。是非とも活用して質問してください。

クモ膜下出血

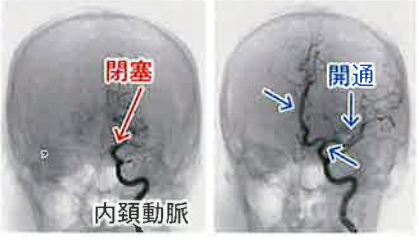
脳血管に瘤(こぶ)が生じ、徐々に大きくなり突然破裂します。焼き餅を火鉢で焼いたようなイメージです。だんだん餅皮が膨らみ、ついには破裂してしまいます。通常は破裂するまで症状はありません。破裂した時はバットで殴られたような痛みが後頭部にあると医学の教科書には書かれていますが、軽い突発する頭痛の方もいます。手術が必要な疾患です。

クモ膜下出血をきたす脳動脈瘤

脳梗塞

血管が詰まる病気です。小渕元総理や田中角栄氏、長島茂雄氏などが罹患され皆さんもご存知でしょう。脳の血管が動脈硬化(糖尿病、高血圧、タバコ、高コレステロールが悪化要因)で詰まる場合と、心臓(不整脈)などで他の血管にできた血栓が飛んできて詰まる場合があります。詰まった血管によって、麻痺や感覚障害、言葉が出にくい、めまいなどの症状が突然出現します。

脳梗塞 内頚動脈先端での閉塞 治療例



加賀市医療センターでの治療例

最近、治療の進歩がありました。tPA(組織プラスミノーゲンアクチベーター)と血栓回収術です。詰まった血管をいち早く開通させる方法です。加賀市医療センターも前記の治療が速やかにできるようになりました。この治療ができることで一次脳卒中センター(PSC)の認定を受けました。すなわち日本(世界)で標準の脳卒中治療がなされているということです。24時間即応できる検査機器と脳卒中専門医の常勤、リハビリを含めた医療スタッフの充実が図られています。石川県で11のPSC施設が認定されていますが、tPAの使用で県内1, 2を争う実績を有しています。

tPAは強力な薬剤ですが、発症してから4.5時間以内の投与という制限があります。早ければ早いほど効果が高く、救える脳組織も多くなります。時間のロスは脳細胞のロスとも言われています。加賀市救急隊の奮闘と住民皆様の意識の向上で、速やかな病院搬送がなされている結果と思っています。ご家族、友人にも脳卒中は時間との勝負とお伝えください。

脳卒中の標語

FAST(ファスト)
※英語で「急いで」の意味

Face(フェイス:顔面)、ゆがんだら。
Arm(アーム:腕)、腕に力がはいらなかったら。
Speech(スピーチ:言葉)、しゃべりが変だったら。
▶ Time(タイム:時間)
急いで病院へ。

NST（栄養サポートチーム）活動

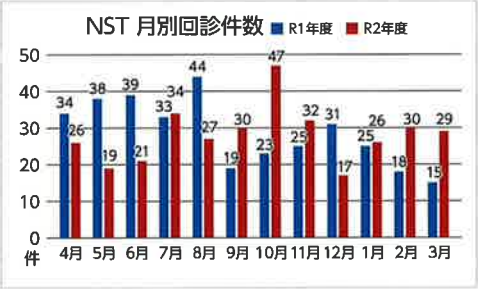
【高齢社会におけるNSTの役割】

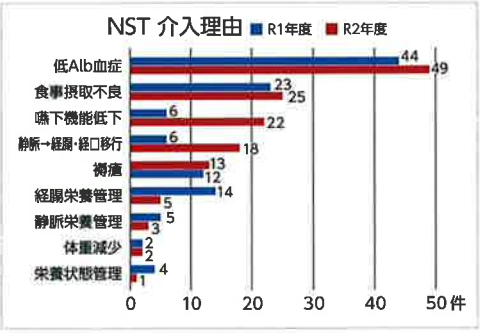
令和元年度の加賀市における高齢者率は人口の34.5%、当院の入院患者さんでの割合は72.9%となっています。疾患の回復には手術や薬物療法、リハビリなど様々な方法があります。これらが最大限の効果を発揮するためには、患者さんの体力を維持し、栄養状態を良好に保つことが必要です。

しかし、高齢になると歯の欠損などにより咀嚼（そしゃく）機能が低下し、味覚も衰え、食欲不振となり、低栄養となるケースが多く見受けられます。そこで当院では患者さんの速やかな回復に向けて、一人ひとりの病態に見合った適切な栄養療法を提供することを目的として、NST（栄養サポートチーム）が活動しています。

NSTの体制	
構成メンバー	医師2名、看護師9名、薬剤師1名、管理栄養士1名、臨床検査技師2名、言語聴覚士2名
対象者の選定	主治医からの依頼、または看護師や管理栄養士などによりNSTが必要と判断された時に介入しています。入院時に看護師により実施される栄養スクリーニングや、管理栄養士による栄養管理計画、臨床検査技師による低Alb患者の集計にて低栄養患者の抽出が行われます。
NST患者の情報共有	チーム内での情報共有には当院独自の「NST回診シート」を用いています。 身体計測値、必要栄養量・摂取栄養量、食事形態、経腸・静脈栄養の内容、検査値の推移、嚥下（えんげ）評価の結果、現状の問題点などの情報共有を図っています。
NST回診	毎週木曜日15時から回診を行っています。令和2年度は1回につき平均8名、年間338件の回診を実施しました。 NSTへの依頼は低Alb血症、食事摂取不良、嚥下機能低下、褥瘡（じょくそう）、経腸・静脈栄養管理など問題点が複数に及ぶため、各専門職が専門性を活かして取り組んでいます。また、介入終了後も切れ目のない栄養管理を目指して他院・施設に移られる際には、「栄養サポートチームレポート」を管理栄養士が作成し、情報提供を行っています。

■ 実績





PCR検査機器の充実

当院では2021年7月より、新たに全自動遺伝子解析装置（PCR検査機器）を導入しました。この機器は約35分で判定、11検体を同時に測定することができます。現在は、この機器に加え、導入以前の7検体を同時測定できるPCR検査機器1台、緊急検査に対応できる迅速PCR検査機器の2台、計4台で新型コロナウイルスのPCR検査を行っています。この機器の導入により、測定できる検査件数が増え、病院内のPCR検査数の増加やクラスター発生時の対応に期待できると考えています。また、7月より開始した加賀市のPCR事業にも対応しており、これからの加賀市の新型コロナウイルスの感染拡大防止に活用していきたいと思います。

高速CTで患者さんの負担を少なく

当院のCTは2台を稼働させています。メインは128列CTで1回転0.28秒のスピードで撮影ができ、心臓CTや息止めのできない患者さんなど多用に活躍しています。

このたび、コロナ対策補助支援でセカンドとして12年間使用していた16列CTを64列CTに更新することができました。今まで胸部CTでの20秒の息止めが5秒に短縮され、急患にも対応できるようになりました。総合的に待ち時間が短縮され動きの少ない撮影ができ、患者さんに優しい検査が可能になりました。

当院は健康保険証の代わりにマイナンバーカードが利用できます。

当院では、健康保険証の代わりにマイナンバーカードを使って、保険資格の確認ができます。マイナンバーカードを、総合受付などにある顔認証機能付きカードリーダーに置いて本人認証し、オンラインで直近の資格情報を確認します。健康保険証の提示は必要ありません。ただし、当面の間、公費医療証は別途提示が必要です。

マイナンバーカードをお持ちではない方は、これまでどおり、健康保険証も利用できます。

詳細については、こちらもご参照ください。

http://www.kagacityhp.jp/topics/2021/20210601.html

基本理念

「おもいやり」

私たちは、市民とともに、市民中心の医療を提供し、市民の健康を守ります

基本方針

1. 信頼される最適な医療を提供します
1. 救急搬送をことわらない体制を目指します
1. 将来を担う優れた医療人を育成します
1. 地域に根付いた医療を実践します

編集後記

COVID-19感染拡大で、今までの生活が一変してから2回目の夏が終わろうとしています。オリンピック・パラリンピックの感動的な時間もあっという間に終わりました。コロナワクチン接種も終盤を迎えています。今できることを頑張りつつ、一日も早いCOVID-19収束をただただ願うばかりです。

発行 加賀市医療センター 地域連携センターつむぎ
〒922-8522 石川県加賀市作見町リ36番地
TEL 0761-72-1188（代表） TEL 0761-76-5133（直通）
E-mail renkei@city.kaga.lg.jp http://www.kagacityhp.jp